動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合
〒280 千葉市要町2番8号（動力車会館）
電話｜（鉄電）千葉 2935・2936番
（公）千葉（22）7207番

91.11.19 No. 3496

11・22スト貫徹へ全力で決起を

館山支部定期大会
スト体制を構築

十一月十四日館山市静海荘において、館山支部第十四回定期大会が開催された。

議長に原一夫委員を選出した後、あいさつに立った笹生支部長は、「今日提案されている動力車乗務員勤務制度の改悪は、まさに乗務員に死を宣告するような攻撃だ。又この攻撃を突破口とするＪＲ五万人体制とは、第二の分割・民営化攻撃そのもので絶対に許せるものではない。二十二日に決定したストに意思統一して決起し、動乗勤改悪を阻止しよう」と力強く訴えた。

来賓として中野委員長よりあいさつを受けたあと、質疑に入り次のような問題点が出された。

①災害時における通勤時の取り扱いについて、
②動乗勤制度の扱いについて、
③区庁舎のワンフロアー化について、
④駐車場の問題について、
⑤庁舎内の暖房（ストーブ）について、

館山支部は一丸となって、「ＪＲ体制」打倒―運転保安確立へ向け突き進むことを確認し、定期大会を終了した。

新役員

支部長	笹生亘
副支部長	渡辺敏博
副支部長	吉田穣一
書記長	川上孝夫
書記次長	小磯重己
執行委員	安西信一
執行委員	加藤幸男
執行委員	小沢智
特別〃	渡辺雅幸
特別〃	塩崎昭広
特別〃	川名泰
特別〃	北島規敬

営業分科会結成される
営業職場に運動の拡大を

動労千葉営業分科会結成大会は、十一月十一日動力車会館において開催され、①強制配転者の原職復帰、②営業での「自動改札機」等の導入＝「ＪＲ五万人体制」合理化との対決、③ＪＲ総連の崩壊に合せた営業での組織拡大の三大闘争課題を重点に、闘いを築きあげていくことを全体で確認した。

結成大会は、赤羽根準備副委員長のあいさつではじまり、本部より来賓として田中書記長より、現在の情勢＝「ＪＲ体制」の崩壊、動乗勤改悪をめぐる状況、動労千葉の闘いの方針が提起された。

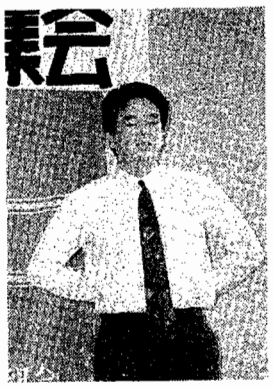
討論の中では、（一）駅における異常時の取り扱いについて、（二）台風の時の駅における対応の違いについて、（三）営業分科会の組織のあり方について、（四）原職奪還に向けて、（五）営業合理化と対決するための調査活動の重要性と分科会独自での団体交渉の強化について、等々が出された。

「フューチャー２１」に代表される、ＪＲ東日本の大合理化攻撃と対決し、営業における動労千葉の運動の拡大・浸透、組織拡大と原職奪還に向け、営業分科会の結成は「ＪＲ体制」の崩壊を促進する、極めてタイムリーな結成であったと言える。

※選出された役員

分科会長	渡辺和志男
〃副会長	赤羽根宣夫
〃事務長	浜野善弘
常任委員	永井一代
常任委員	岡安正人
常任委員	外山義章
常任委員	佐藤博

予科生地労委開かれる（11月12日）
＝半田君証人に立つ！＝



十一月十二日、千葉地労委において、『運転士登用差別事件』審問が行なわれた。当日、多くの仲間、とりわけ予科生を始めとする青年部の仲間がかけつけ、大変心強いものでした。

まず始めに反動ＪＲ当局荒井証人に対する反対尋問が行なわれ、次に自分が予科生当事者の代表ということで証人として立った。席に座る時、当局側を見ながら、様々な思いが頭を駆け巡った。反動ＪＲ当局は、『就業規則に基づき公正に行なっている。』と言っているがどこが公正なのか、自分が他の人間より劣っているのか、それとも運転士に向かないのか、明らかに組合差別ではないか！

反動ＪＲ当局の反対尋問においては、まるっきりトンチンカンな質問ばかりでまともな質問などできない状況で終始した。自分はこの反動ＪＲ当局のおごりたかぶり、まさに挑発的な攻撃を断じて許さず、本件地労委において、ＪＲの不当労働行為を暴き、圧倒的勝利に導く決意です。